

学習者のコミュニケーション特性に基づく スペイン語事後学修用 eラーニング教材使用分析

東海大学 結城健太郎

東海大学 峯崎俊哉

はじめに



背景

- ▶ 所属機関
 - ▶ 東海大学国際教育センター（外国語科目と関連科目を担当）
- ▶ 発表者の担当科目
 - ▶ スペイン語科目と関連科目
 - ▶ 大部分は自由選択科目、ただし今回の調査対象は第二外国語の選択必修科目

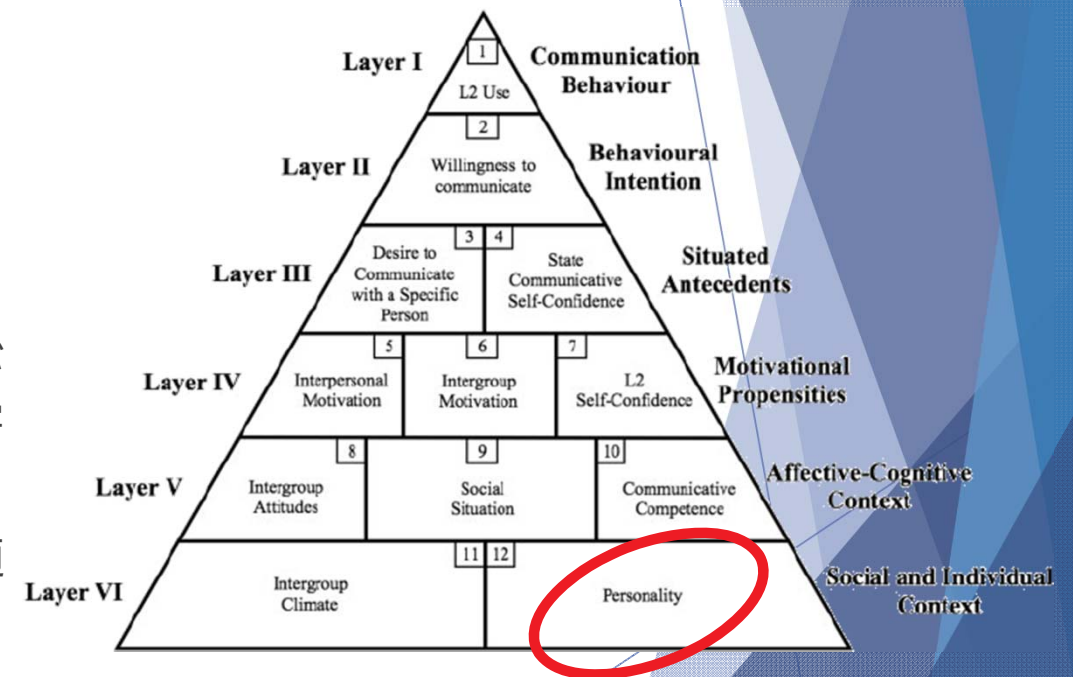


着眼点

- ▶ 学習者のコミュニケーション特性 (自己主張の強さ、感情表出の強さ) によって、eラーニングの使い方・効果は異なるのか？

← 発表者の担当授業では、「自己主張が弱い・感情表出が弱い」タイプの学生の学習継続を目指している。

→ コミュニケーション特性によって、適したeラーニング教材の構成、使用条件が異なる可能性がある。



Willingness to Communicateモデル
(MacIntyre et al., 1998)

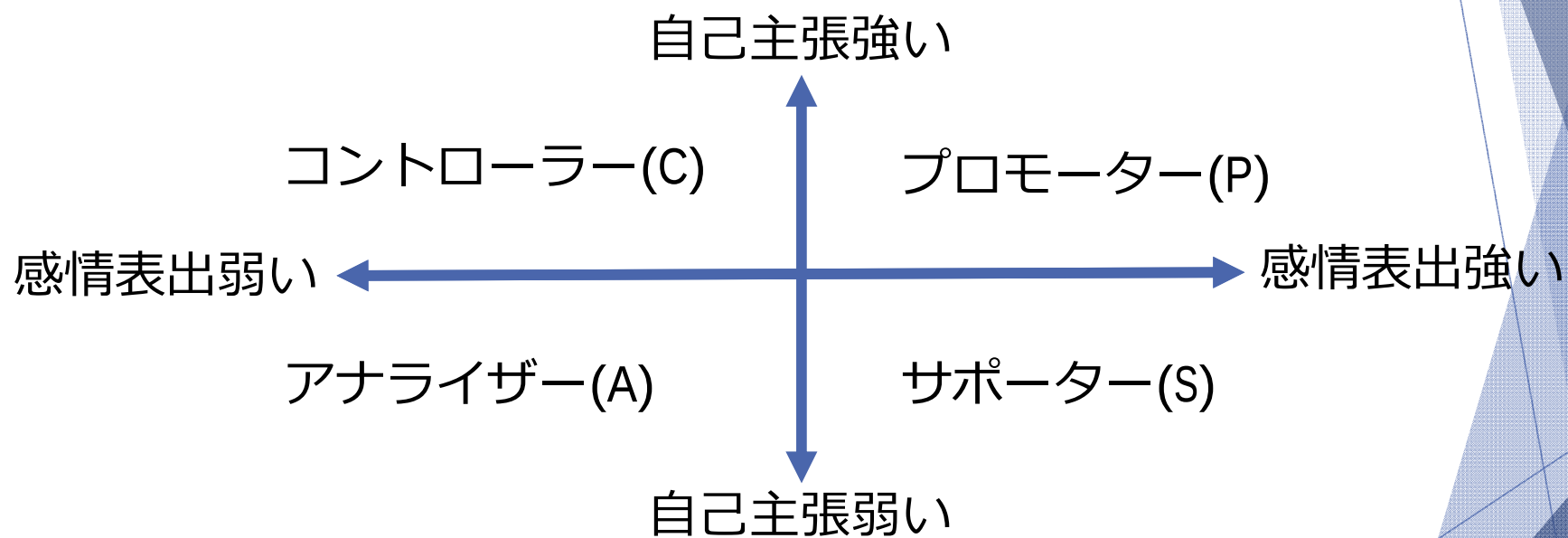
CSI



CSI-Communication Style Inventory

- ▶ コミュニケーション・スタイルによる人間のタイプ分け、市毛智雄によって、コーチング（人材開発・目標達成の支援）を効果的に行なうために開発された。(鈴木、2002)
- ▶ 大学教育においても、学生のタイプ分けに用いられている。(田中、2014)

4つのタイプ分け



- 感情表出の強弱：感情表現や人間関係を重視するかどうか
- 自己主張の強弱：自分の判断や影響力を重視するかどうか

4つのタイプ

- ▶ **コントローラー (C)**
行動的で、自分が思った通りに物事を進めることを好む。他人から指示されることを嫌う。
- ▶ **プロモーター (P)**
人と活気あることをするのが好み、自発的なエネルギーである。一つのことを持続するのが苦手である。
- ▶ **サポーター (S)**
人を援助することを好み、協力関係を大事にする。自分自身の感情は抑えがちである。
- ▶ **アナライザー (A)**
多くの情報を集め、分析、計画するのが得意である。人との関わりは慎重で、急激な変化を嫌う。

鈴木(2002)

CSIテスト

- ▶ 質問紙により調査
- ▶ 記名式
- ▶ 設問項目 20 項目、4 件法
- ▶ CSIテスト簡易版（鈴木）を使用
- ▶ C, P, S, Aの4つのタイプの得点を算出
- ▶ 2016年6月、スペイン語入門科目「第二外国語2」の履修者54名に対し、CSIテストを実施

アンケート

実施日	年 月 日	学 生 証 書 号 (下の欄に記入し○にマークしてください)																																													
授業科目名		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
教員名		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
氏 名		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
その他		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D

あなたの日頃の人との関わり方やものの考え方を振り返り、下の項目について、該当する数字を○で囲んでください。
(1=よくあてはまる 2=あてはまる 3=あまりあてはまらない 4=あてはまらない)

問1	自己主張することが下手だと思う	1 0 2 0 3 0 4 0
問2	常に未来に対して情熱を持っているほうだ	1 0 2 0 3 0 4 0
問3	他人のためにしたことを感謝されないと悔しく思うことがよくある	1 0 2 0 3 0 4 0
問4	嫌なことは嫌と、はっきり言える	1 0 2 0 3 0 4 0
問5	人にはなかなか気を許さない	1 0 2 0 3 0 4 0
問6	人から楽しい人としてよく言われる	1 0 2 0 3 0 4 0
問7	短い時間にできるだけ多くのことをしようとする	1 0 2 0 3 0 4 0
問8	失敗しても立ち直りが早い	1 0 2 0 3 0 4 0
問9	人からものを頼まれるとなかなかノーと言えない	1 0 2 0 3 0 4 0
問10	たくさんの情報を検討してから決断をくだす	1 0 2 0 3 0 4 0
問11	人の話を聞くことよりも自分が話していることのほうが多い	1 0 2 0 3 0 4 0
問12	どちらかというと人見知りするほうだ	1 0 2 0 3 0 4 0
問13	自分と他人をよく比較する	1 0 2 0 3 0 4 0
問14	変化に強く適応力がある	1 0 2 0 3 0 4 0
問15	何事も自分の感情を表現することが苦手だ	1 0 2 0 3 0 4 0
問16	相手の好き嫌いにいかめわず、人の世話をしようほうだ	1 0 2 0 3 0 4 0
問17	自分が思ったことはストレートに言う	1 0 2 0 3 0 4 0
問18	仕事の出来栄について人から認められたい	1 0 2 0 3 0 4 0
問19	競争心が強い	1 0 2 0 3 0 4 0
問20	何事でも完璧にしないと気がすまない	1 0 2 0 3 0 4 0

eラーニング教材



eラーニング教材

- ▶ 学習範囲における動詞活用・語彙の練習問題
 - ▶ 語形変化、単語のつづりを回答
 - ▶ 1問1答式、合計10問
- ▶ moodle上での運用
 - ▶ PC, タブレット, スマートフォン, フィーチャーフォンによる利用
 - ▶ 特殊文字(á, é, í, ó, ú, ñ)の扱い: 代替記号による入力(a/, e/, i/, o/, u/, ny)を許容



教材の使用



- ▶ 教授内容の復習用としてほぼ毎週使用
 - ▶ 授業内：出題の予告・出題事項の説明
 - ▶ 授業後：出題，期限（1週間）・回答時間（3分）の制限，1実施ごとに成績をフィードバック、回答回数無制限（ただしランダム出題）
 - ▶ 想定される実施方法：準備15分，実施3分，通信・入力2分の計18分程度
 - ▶ 各回最高得点の合計点をeラーニング点とし、最終成績で使用することを予告

使用の記録

- ▶ 使用期間終了後、活動記録を取得
 - ▶ 活動回数：ページ閲覧、受験の開始、受験の送信、レビュー等、コース上で行った操作の回数
 - ▶ 使用時間 = 活動量??
 - ▶ 活動効率：eラーニング点/活動回数
 - ▶ ただし、「効率がよい学生 = 勉強をよくする学生」とは限らない??

時間	ユーザ	イベント	コメント	スコア	IPアドレス
07/01/14 01:21	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:22	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:23	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:24	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:25	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:26	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:27	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:28	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:29	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:30	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:31	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:32	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:33	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:34	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:35	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:36	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:37	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:38	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:39	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:40	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:41	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:42	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:43	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:44	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:45	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:46	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:47	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:48	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:49	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:50	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:51	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:52	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:53	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:54	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:55	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:56	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:57	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:58	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 01:59	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34
07/01/14 02:00	ユーザID 10	コースが閲覧されました			157.245.248.34

分析



回歸分析結果

	活動回数	活動効率	授業成績
C値	-3.060	-0.001	0.443
P値	-19.229	0.008	-0.944
S値	-46.670	0.001	-0.664
A値	24.520	0.004	0.961

分析結果から

- ▶ コミュニケーション特性は活動回数と比較的關係があると考えられる
 - ▶ A値（自己主張低・感情表出低）は活動回数と正の關係
 - ▶ P値（自己主張高・感情表出高）・C値（自己主張高・感情表出低）は負の關係
- ▶ A値は活動回数が多くても授業成績につながっていない
 - ▶ A値の高い学習者にとって効果的なeラーニング教材のタイプ・使用法の開発が必要

改善案



教材内容の改善案

- ▶ 会話表現を問う問題を加える
 - ▶ ペア・ワークに代表される協調的な学習は、会話表現を学ぶために重要だが、A値の高い学習者は他のタイプほど協調的活動を好まないとされる。
 - ▶ 語形変化、語彙に加えて、会話表現を問う問題を加えることにより、授業内でのペア・ワークが苦手でも、復習の機会が得られると考えられる。



使用方法の改善案

- ▶ 授業内でのeラーニングの予行を徹底
 - ▶ A値の高い学習者は急激な変化を嫌い、十分な準備をすることを好むとされる。課題実施前に授業内で類題を用いて予行演習を実施し、準備させる。
- ▶ 授業で実施する課題全体の提示
 - ▶ A値の高い学習者は明確な目標設定と計画的な学習を好むとされる。授業期間中に実施する課題を全てを提示し、計画的に学習が進められていることを意識させる。

結びにかえて



結びにかえて

- ▶ 有意差は見られなかったものの、コミュニケーション特性とeラーニング教材における活動回数は関係している可能性がみられた。
- ▶ A値（自己主張低・感情表出低）の高いタイプは活動回数に見合う授業成績が得られていないようであるため、eラーニング教材に改善が必要である。
 - ▶ 会話形式の問題の追加
 - ▶ 問題の予行・実施予定課題の提示

参考文献

- ▶ 阿部恵 (2012) 「Communication Style Inventory を用いた医療コミュニケーション向上への試み」, 『日本顎咬合学会誌 咬み合わせの科学』 32(1-2), pp.131-139, 日本顎咬合学会.
- ▶ 白澤秀剛, 結城健太郎 (2016、予定) 「学習者特性分析に基づく科目群別の履修者傾向分析」, 『外国語教育研究』 19, pp.57-73, 外国語教育学会.
- ▶ 鈴木義幸 (2002) 『コーチングから生まれた熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ』, ディスカヴァー・トゥエンティワン.
- ▶ 田中洋一 (2014) 「ジェネリックスキルを身につける授業設計－e ポートフォリオ Mahara の活用－」, 『第39回教育システム情報学会全国大会発表論文集』, pp.227-228, 教育システム情報学会.
- ▶ 中山実, 山本洋雄, R.サンティアゴ (2006) 「学習者特性がブレンド学習の行動に及ぼす影響」, 『電子情報通信学会技術研究報告』 106, pp.49-54, 電気情報通信学会.
- ▶ 八島智子 (2003) 「第二言語コミュニケーションと情意要因」, 『関西大学外国語教育研究』 5, pp.81-93, 関西大学外国語教育研究機構.